

「『チーム南郷』で目指せ100年産地！」 南郷トマト産地の維持・発展に向けた取組み

南会津農林事務所農業振興普及部

背景・ねらい

- ・南郷トマトでは普及が事務局を務め、南郷トマト生産組合（以下、「生産組合」）役員、JAで構成される「南郷トマト指導班」が生産者や研修生に対して技術的支援を実施している。
- ・近年は新規就農希望者の減少や高齢化に伴う廃作により、生産者数・栽培面積ともに減少傾向にある（図1）。
- ・高温の影響による裂果などにより高単価の期待できる9月以降の収量が減収となり、単収が不安定である（図2）。
- ・物価高騰に伴い、生産者の所得が減少気味である。

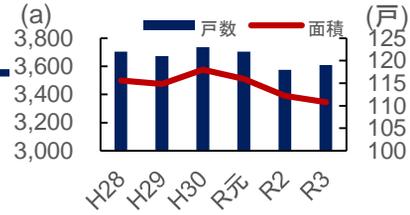


図1 生産者数と栽培面積の推移

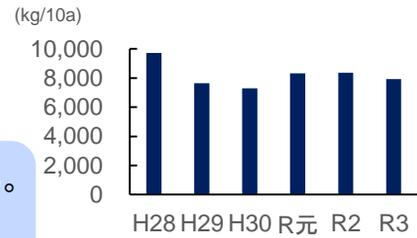


図2 産地平均単収の推移

課題

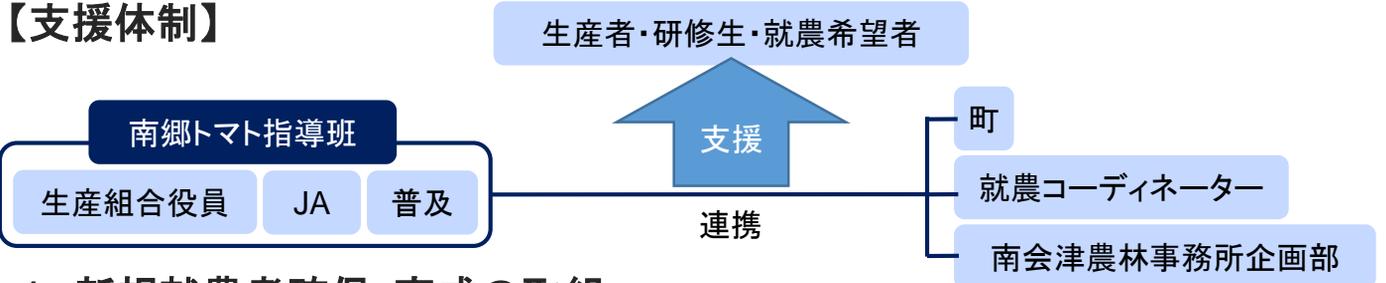
- ・産地規模を維持するためには新規就農者を確保する必要がある。
- ・生産量確保のため、単収向上を図る必要がある。
- ・生産者の所得向上に向けて、販売力を強化する必要がある。

ねらい

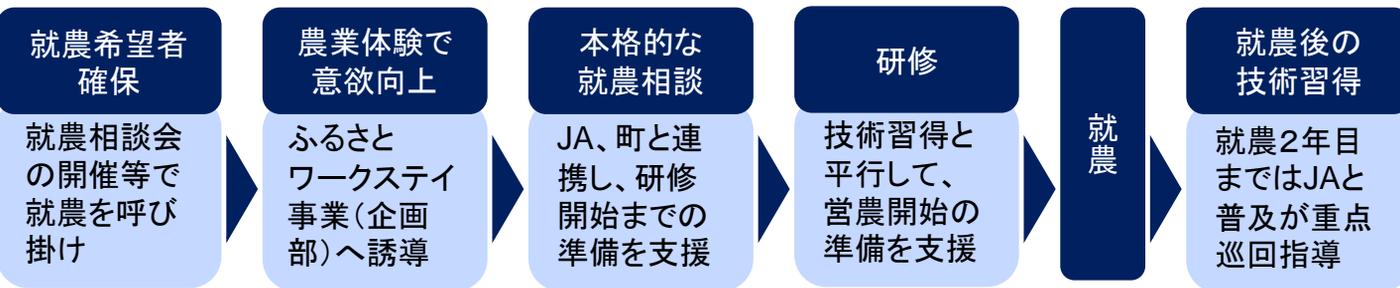
- ・幅広い就農の呼びかけや就農希望者の受入体制の整備による新規就農者の確保
 - ・裂果の少ない新品種の導入や秋の収量確保による、既存生産者の単収の向上
 - ・JGAP団体認証の取組や地理的表示保護制度(GI)への登録による産地基盤や販売力の強化
- これらの活動を通して、南郷トマト産地の維持・発展と儲かる農業の実現を図る！**

活動内容

【支援体制】

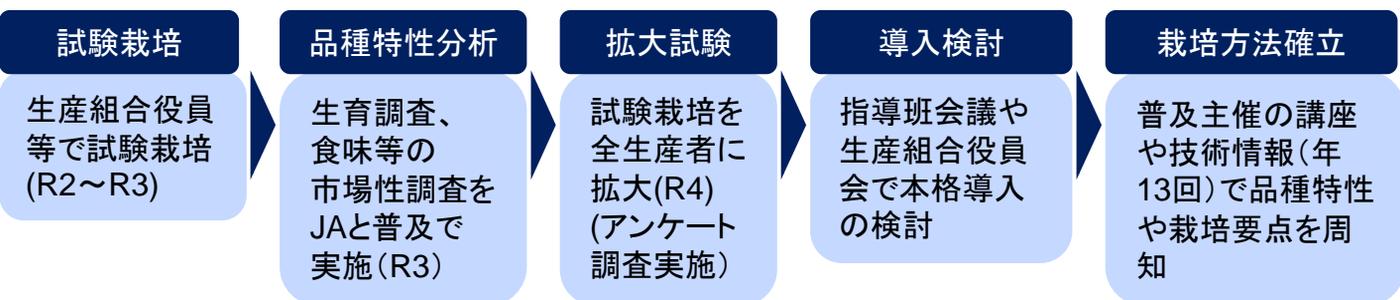


1 新規就農者確保・育成の取組



2 単収および品質向上のための取組①

R2より裂果による出荷ロス低減を目的として新品種「桃太郎みなみ」の導入を推進



2 単収および品質向上のための取組②

- ・高単価となる秋期(9月~10月)の収量確保のため、R4より摘芯研修会を実施し、9月上旬の摘芯前後の栽培管理について指導
- 研修会の様子はYouTubeの限定公開機能等を活用して、参加できなかった生産者も閲覧可能に
- ・9月以降の出荷の重要性を周知するために秋期の収量が最も高い生産者に対する表彰を新設
- 生産者に対して秋期の収量確保を意識付け



図3 摘芯研修会のようす

3 ブランド力強化の取組

- ・H27より更なるブランド力強化のためにGIへの登録を誘導
- 企画部と連携し、JAや生産組合に対してセミナーへの参加誘導やJAと連携して申請書の作成を支援
- ・R元より生産基盤の強化や市場・消費者の信頼向上を目的としてJGAP団体認証の取組を誘導
- JAと連携して生産者主体の取組体制を構築

活動成果

1 新規就農者の確保・育成

- ・福島県就農促進に向けた研修機関の認定を受けたR2以降、**8組が新規就農**
- 新規就農者**8組のうち6組が就農2年以内に産地平均以上の単収を確保**
- ・R6は1組が新規就農、3組が研修開始予定
- ・産地では生産者の28%がターンによる就農者

2 単収および品質向上

- ・桃太郎みなみの導入及び秋期の収量確保に取り組んだ結果、単収が向上!(図4)
- ・加えて、新品種の導入によりA品率も大幅にUP!(R3:24.1%→R5:42.8%)

3 ブランド力強化

- ・H30に**県内で初めてGI認証を取得!**
- ・JGAP団体認証はR元の先発隊31戸から始まり、R5までに**87戸(83%)が認証を取得!**
- R6に全戸での認証取得**を目指して取組みを継続中(図5)

さらに、役員等が新規取組者に対して支援を実施するなど、生産者を中心とした活動が拡大

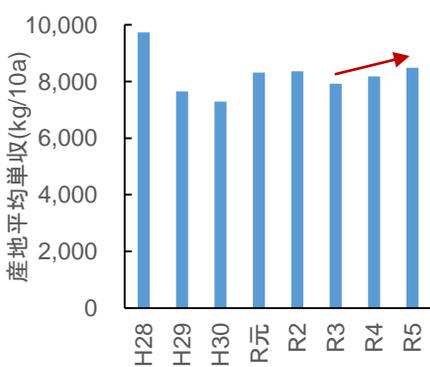


図4 産地平均単収の推移

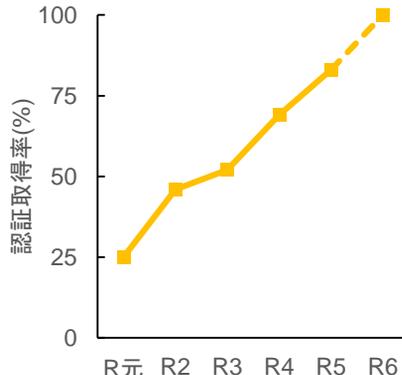


図5 各年度のJGAP認証取得率

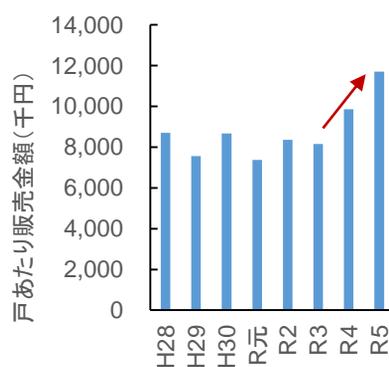


図6 1戸あたり販売金額の推移

R5に南郷トマト生産組合の販売金額は**過去最高の12億2,900万円**さらに1戸あたり販売金額が過去最高(図6)→**儲かる農業が実現!**

今後の活動・方向性

- ・多様な労力(デイワーク、外国人労働者etc.)確保による産地規模の維持・拡大支援
- ・気候変動に合わせた高温対策技術等の導入支援
- ・全戸でのJGAP団体認証取得を活かした販売対策

南郷トマト「100年産地」を目指して産地支援を実施!